

令和 7 年度(3 月)紀の国森づくり基金運営委員会

日時:令和 8 年 3 月 26 日(木) 10 時 00 分より

場所:和歌山県薬剤師会館 2 階 中会議室

開 会 午前 9 時 52 分

森林整備課	「令和 7 年度(3 月)紀の国森づくり基金運営委員会」を開催する。
森林整備課	設置要綱第 4 第 3 項により、委員数 8 名に対し過半数 7 名が出席で、本委員会が有効に成立したことを報告。
事務局	「紀の国森づくり基金・紀の国森づくり基金運営委員会について」説明。
森林整備課	審議は、自由な議論を行うため非公開。
森林整備課	議事(1)任期により、委員が新たに就任のため、設置要綱第 3 第 1 項により、委員の互選で委員長及び副委員長を選出。
森林整備課	設置要綱第 4 第 2 項により、会議の議長は委員長があたる。
委員長	設置要綱第 8 第 1 項に基づき、議事録署名人を指名。 議事(2)「令和 8 年度紀の国森づくり基金活用事業について」。 議事(2)について、事務局の説明を求める。
事務局	「令和 8 年度紀の国森づくり基金活用事業について」説明。
委員長	各事業について、委員に意見、質問等を求める。
委 員	「人工林の広葉樹林化」のところで、調査の委託とは、これまでやってきた部分の調査をして今後に生かすのか。それとも、今後やっていくところを調査するのか。あるいは、その両方なのか、その目的を教えてください。

事務局	<p>まずは、これまで植栽してきたところを調査し、評価をしていく。その評価を基に今後植栽するところを、その調査を参考にして広葉樹林化を進めていく。</p>
委員長	<p>これまでも何度か、効果の検証はちゃんとすべきではないかという議論になってきたが、今回ようやくこういった形で予算化していただいた形になるかと思う。</p> <p>ほか、いかがか。</p>
委員	<p>「花粉症対策の母樹園整備」が3,000万から300万というのは、園の整備が終わりこれからは管理をするということで、整備の部分が減って費用が大幅に下がったという解釈でよいか。</p>
事務局	<p>そのとおり。今回は、ハウスとかハード面を整備したので金額がかなり上がったが、今後は水やりとか管理をしていく部分になるので減額となる。</p>
委員	<p>今日も花粉症の方が何人かいらっしゃるが、大勢の方が期待していると思うので、しっかりとやっていただきたい。</p> <p>二つ目、林業や製材は大きな役割を占めている。「紀州材公共施設木造木質化モデル」ということで、ここでは紀州材だが、やはり木質化は良いというPRをどんどんやっていただきたいという要望。</p> <p>今年、「全国育樹祭」があるが、この「全国育樹祭」を林業に携わっている一部の方だけでなく、県民に対して広くアピールするべき。皆さんからいただいている税金を活用して和歌山の森づくりをしっかりと進めていることや、森の大切さをPRしていただくには最高の機会かと思う。PRに関して、こういう視点でやっていくということがあれば教えていただきたい。</p>
農水部技監	<p>「全国育樹祭」が今年11月7～8日開催することになっている。</p> <p>まずは、田辺の新庄総合公園で、天皇・皇后両陛下がお手植えされた木のお手入れをし、8日には白浜町の白浜会館で式典行事を開催。大勢の方が参加していただけるため、この機会を生かして和歌山の森林・林業をPRすることが非常に重要だと感じている。</p> <p>式典イベントの中では当然しっかりとアピールするが、それとは別に、</p>

特に白浜会館の式典行事には約 2,000 人の方が見られるので、「おもてなし広場」などでこの「紀の国森づくり基金」の活用なり実績をPRしていければと検討している。

そのほかにも、様々なところで今後も PR していければと思っている。

委員

いろいろ仕掛けられると思う。田辺市で何かやっている、ということに終わらないように願います。

事務局

二つ目の木材の活用については、お手元の「木造建築のススメ」という冊子を作っている。これで木の良さをアピールして、積極的に木材が使われるよう、これからも啓発していきたい。

委員長

そのほか、いかがか。

委員

全体的に見て、今説明いただいた「紀州材公共施設木造木質化モデル」に対しては、事業予算が上がってきている。一方で、住宅に関しては予算がなくなってしまうのが現状。県民の皆さんに木造の良さを知っていただくという面では、やはり住宅も継続して補助を入れる必要があると思うが、今後の見通しについてどうか。

農水部技監

昔から和歌山県はいち早く住宅の補助を行ってきて、住宅の木造率は全国に比べて非常に高く、かなり定着してきているという声もあるが、これからは民間非住宅でいかに木を使っていくかが非常に重要になってくる。

和歌山県が何に一番力を入れていくかを考えたとき、住宅の補助を民間非住宅に移して木造化を進めていくことが重要。これは一気に方向転換ということではなく数年前からPRしながら進めている。

委員長

そのほか、いかがか。

委員

二つある。

一つは、「公募事業」が7年度に打ち切られているのはどうしてか。「緑育推進」に組み込まれたのかと予想はしたが。

南方熊楠記念館で使わせていただいたことがあり、海岸林の大切さを来場者に知らせることで大変良い企画だったと思っているが、その

理解でよいか一つ。

もう一つは、天神崎では観光客が大変多くなり、ガードレールを新しくしてほしいと市に要請していたが、このたびきれいな木製ガードレールが設置された。「紀の国森づくり基金」を活用したものが気になっていたが、違うのか。

もしそうであれば、“これは「紀の国森づくり基金」で造りました。”と書いていただくと、納税者にとってはすごく納得できる結果になるので、分かりやすくアピールして知らせてほしいという要望。

事務局

「公募事業」は平成 19 年から実施してきたが、同じ事業が増えてきて固定してきたというか、しっかりとした団体が出てきたというのがある。そのような中で、「森林景観づくり」の「県民参加の森づくり」事業へと移していったという経緯がある。

補助事業の中で、森づくりの分野については「県民参加の森づくり」で対応する。また、学習系は緑育の中に入れて県民の方が参加してできる形で対応しているので、今までやってきた活動はこの中でできると思う。

農水部技監

もう一つ、施設整備の中で基金事業を使ったかどうか。

看板という話は、以前からも運営委員会でいろいろ出てきている話。例えば、木製ガードレールを使ったところでは、この木製ガードレールは「紀の国森づくり基金」を活用しているという看板を見やすい場所に設置し、PRしているため、ご承知のほどをよろしく。

天神崎については、田辺市の「森林環境譲与税」で整備されたと伺っている。

委員長

ほか、いかがか。

委員

二点ある。

一点目はパンフレットの 5 ページでは「紀の国森づくり税」の年間の税収見込みが 2.7 億円となっているが、片や第 4 期予算計では 5 年間で 17 億ということで、 $2.7 \text{ 億} \times 5 = \text{約 } 13 \text{ 億}$ だが、この差額はこういったものか。

二点目は先ほど出た木製ガードレールや竹林整備等の場所の選定はどうしているのか。例えばこの会で決めるものか、教えていただきたい。

事務局	<p>予算の差額の関係は、現在第4期だが第3期で使い切れなかった額があり、それを第4期で活用させていただいた結果、増額となっている。</p> <p>また、木製ガードレールについては、白浜空港線という観光客が結構多いところに設置していて、目立つようなところを選定している。</p> <p>また、竹林整備については、要望のある市町村・事業者等に対して、県から直接、補助をしている。</p>
農水部技監	<p>補足説明を。</p> <p>木製ガードレールについては、県の「公共建築工事木材利用マニュアル」で、木製ガードレールは県民や県外から来られる方の目につきやすい観光地等を整備するに当たって進めていくと定めており、こちらの委員会でその場所を決めていただくことにはなっていないので、ご了解願いたい。</p>
委員長	<p>木製ガードレールなどの場所は、この委員会では決めていないが、やはり目につくところで、ちゃんとそれが基金で造ったことが分かるように、どういう効果があるか分かるように。この様なご意見は繰り返しこの場でも出されていて、それに合わせ、今とれとれ市場などで説明の展示をしたり、この委員会のご意見を反映していただいている。</p> <p>ほか、いかがか。</p>
委員	<p>「森林公的管理」について紀州御留林を500haほど管理されているということだが、管理は県でされているのか。</p> <p>二つ目、「健全な里山づくり」の中で、「ごまさんふれあい再生の森」で、ここでもカシノナガキクイムシが入ってきていると聞いているし、ミズナラが集団で生育している県の一番の目玉でもある。被害状況とか、何かやろうとしているのかを教えてください。</p>
事務局	<p>紀州御留林については、現在、調査をして被害木がある場合は駆除する格好で管理をしている。</p> <p>「ごまさんふれあい再生の森」事業については、今、天然更新をしようと考えているが、シカなどの被害が多いので、まず柵をして天然更新を促す。あと、当然ミズナラの被害もあるので、カシノナガキクイムシの被害木の整備などもこの事業で行っている。</p>

委員長	ほか、いかがか。いろんな意見が出ている。
委員	先ほどの「森林公的管理」と少し関連するが、既に取得している公有林になっている部分の管理など、今後公有林にしていくために、どの地域の、どの辺りまでという目標は具体的に定められているか。
事務局	<p>14 ページの「森林公的管理」の公有面積は、全体で 1,178ha で、県は 500ha ほどだが、各市町村も購入している。</p> <p>ご指摘のように、当然その中では病虫害の被害があるところもある。公有林にするだけじゃなくて、県全体で病虫害の被害防止をするために、「森林景観づくり」の「健全な里山づくり」のところでも対策を行っている。</p>
自然環境課	目標数値につきましては、県としての公有林化の今期事業での目標値は1,000ha としておったが、現状は500ha 強にとどまっている。
委員長	<p>「森林公的管理」については、購入するチャンスのある森林が出てきたときに対処する、そういう決め方をしていた。大体この辺りをというめどがついたときに、これは何年がかりでという形で予算がついていたと私は記憶している。もちろん目標は持ったほうが良いとは思いますが、非常にそれになじみにくい事業かなと思った。</p> <p>ほか、いかがか。</p>
委員	「竹林対策」で、6 ページに“放置され、荒廃が進んだ竹林を整備し”となっているが、もともとの竹林を整備するのか。山主さんから見たら、竹林を放っておくから自分の敷地まで竹が生えてきて大変というケースが非常に多いと思っているが、その周辺もこの事業で整備できるのか。
事務局	竹林は放置すればどんどん広がる。そういった広がった竹林を整備する格好で実際行っている。当然、タケノコなどを取っている、管理された竹林についてはこの事業は使わなくて、放置され広がっている竹林に対して広葉樹林化する事業。
委員	周りの人工林に竹が入ってきた場合、それも広葉樹林化してしまうのか。

農水部技監 それは、「竹林対策」。

事務局 そういったところは竹を伐採するが、人工林に竹林が入ってくれば、竹を伐採して竹林対策でやっている。

委 員 本来じゃない、目的としている山に戻すと、そういうこと。

事務局 はい。

委員長 私から二点だけコメントを。
一つは、今回、「人工林の広葉樹林化」などの効果検証の予算が入ったことは、本当に必要なことだと思っている。
先ほど質問にあったが、「公募事業」について6年度でやめるときに、そのときの補助事業に付け替えていくこと自体は了承を得られたと思うが、市町村によってその取組を促進するかどうかで少し温度差があるのではないかと。
なので、引き続き県でも目配りをしてそういった市民の活動が活発になるようにという意見が確かに出ていたかと思うので、「公募事業」はなくなったが、その後どんな事業が行われたのかも、この運営委員会でも検証というかチェックできる形で資料が見られると、より良いのではないかと思う。
もう一つ、「紀州材公共施設木造木質化モデル」の事業で、冊子を作っていたのだが、この公共建築物の施設を造るとき、議会などが非常に重要になってくる。例えば、市町村の市長会とか、議員が正しく木質化を図ること、あるいはそこに紀州材を使うことの意義。木造のコストが、広く捉えたときに高いのかどうかというところ。ここを本当によく理解いただくと、より導入がスムーズなのかと思うので、ぜひそういう対策もしていただければと思うが、そんなPRの取り組みを行っているか。

農水部技監 「紀州材公共施設木造木質化モデル」については、今回こういうパンフレットを作っているが、このパンフレットや別の資料を用いて、例えば市町村であれば、首長さんに対して木造木質化をする場合のメリットや今の建築費用などを提示しながら、市町村で公共建築をする場合、紀州材を使って木造木質化を図ってくださいというキャラバン活動を森林・林

業の団体と一緒に PR をして普及に努めている。

その他、補助事業や、先ほど申し上げたように、市町村が造ることによって民間の建築物の木造木質化が進むということも踏まえて、市町村にはぜひ紀州材を活用していただきたいと強くお願いしている。

委員長

ぜひその辺りを強く進めていただきたい。

あと、今年せつかく「全国育樹祭」の年なので、「紀の国森づくり基金」の成果なりを周知することに、存分にその場を使っていたきたい。

これは私の個人的な感覚だが、「キノピー」は「きいちゃん」よりも露出が少ない。圧倒的に「きいちゃん」のほうが今でも目に入るということで、せつかくなので、この「キノピー」の姿も出しながら、もう少し県の中で盛り上がりが見えると良いと思う。

これからすごく PR をかけていくと思うが、せつかくの機会なので、ぜひ盛り上げていければ良いと思った。

ほか、いかがか。

委員

今、農林水産部技監から説明いただいたが、「木造建築のススメ」のパンフレットの制作に県木連も一枚かんでいて、4年目ぐらいになると思うが、前年に造られた木造の公共施設からピックアップして選ばせていただいている。

先ほども、キャラバンというお話があったが、森林組合連合会、県木連と一緒に各市町村長さんに“木を使ってください”という PR で回るときにこれを一緒に持って行って、“早い”“設計段階から考えてください”というネタ本みたいな形で使わせてもらっている。

一応、補足説明という形。

委員長

ほか、いかがか。

委員

先ほどの「森林公的管理」、いわゆる紀州御留林だと思うが、それと「森林景観づくり」の、「未来を彩る花の森づくり」、この二つについては、以前の知事のトップダウンでスタートした事業だと思う。森林部局ではないところは、こういう事業に対する意識はどうしても弱くなっていくのが世の常かと思う。

そのため、この御留林についても、「未来を彩る花の森づくり」についても各担当部局でしっかり振り返って考えていただいて、今のやり方が良

いのか、これから続けていくのかを整理されたほうが良いと思う。

先ほどのお答えを聞いても、林の担当の方とちょっとスタンスが違う気がするので、しっかり振り返って今度どうしていくかを検討されたほうが良いかと思う。

苦情みたいな、何か批判みたいなことを言って申し訳ないが、それぞれ自然環境課さん、地域振興課さんで整理されたほうが良いかと思われる意見。

農水部技監

委員おっしゃるとおり、この二つについては森林局以外のところでもやっている。先ほど説明させていただいたが、「未来を彩る花の森づくり」については、一応令和 8 年度が最後になっている。

また、「森林公的管理」については、前回の運営委員会でも、この事業は非常に重要だと言われているし、「紀の国森づくり基金事業」の県民アンケートも実施しているので、その結果を踏まえて、当然ながら事業を継続、またどういう格好でしていくかを第 5 期に向けて考えていき、この運営委員会の皆様にまたご意見を伺いたく思うので、よろしく願います。

委員

「花粉症対策」に関しては、見てのとおり私自身も苦しんでいるので、ぜひとも積極的に進めていただきたい。

あと、「緑育推進」も、森林の大切さや木材の良さを次代へつなげていくという意味では、子供たちにその良さや大切さを知ってもらうことは非常に大事なことも思っている。

私の子供も、森林体験など小学校でお世話になったが、その部分に関しては、より積極的に進めていただきたい。

「紀州材公共施設木造木質化モデル」のところも、こども園や小学校など実際に触れるところがないと分かりにくい部分がある。特に子供たちの場合は、そういう形でより直観的に良さを分かたりという部分もあると思うので、より積極的に進めていただければありがたいと思う。

農水部技監

「緑育推進」については、県も非常に重要だと考えていて、「公募事業」の廃止に伴い拡大した事業の中の一つ。これまで学校関係の緑育だけだったが、県民団体で企画する子供たちへの森林環境教育、県民緑育という形でこの事業で取り組んでいる。

さらに、「全国育樹祭」の開催に当たり、1 年前キックオフイベントで尾

木直樹先生を呼んで、森林環境教育がいかに重要かをPRしていただくとともに、委員長にコーディネーター役を務めていただき、和歌山県の特色ある森林環境教育に今取り組んでいるが“今後ますます頑張っていこう”ということで、うまく取りまとめていただいた。

こういうことを県内にも広く発信するとともに、この「緑育推進」についても力を入れて今後も頑張っていきたいと思うので、引き続きよろしく願いたい。

委員長

そろそろ時間も参ったが、あとよろしいか。

ということで、今日、本当にたくさんのご意見や質問、質疑の中からも、この「紀の国森づくり基金」に対する理解が非常に深まったと思うし、ある意味、次期に向けての課題や希望、そういうものも浮かび上がってきたと思う。

4期の締めくくりの年でもあるし、今いろんな調査もしていただいているので、この5年間をまず我々も少し総括というか確認した上で、次に向けてこの場で研究していければ良いかと思う。

それでは、事務局もよろしいか。

それでは、本日はこれで議事は全てとなる。委員の皆様には、たくさんのご意見やご質問、円滑な進行にご協力いただき、本当に大変感謝している。

では、以上で事務局にお返すする。

事務局

来年が第4期の最終年。第5期に向けて、昨年度、県民意識調査を行ったが、認知度は上がっており“継続してほしい”という声が多数ある。中には先ほども出た“木製ガードレールは見にくい”“茶色なので何とかもう少し明るくしてほしい”と。

あとは調査した時期がちょうどクマの被害が多い時期だったので“クマ対策をしてほしい”という声があった。

この「県民意識調査」を取りまとめて、次回の運営委員会でご報告できたらと思っている。その結果で、第5期の方向性などをご説明していきたいと思うので、また貴重な意見をよろしく。

以上。

森林整備課

それでは、委員の皆様、長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございました。

本日の審議の内容については、事務局にて議事録に取りまとめ、各委員の皆様が発言内容をご確認いただいた後、冒頭に委員長から議事録署名人としてご指名いただいた委員に署名をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

これをもって、「令和7年度(3月)紀の国森づくり基金運営委員会」を終了いたします。

本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

閉会 午前11時12分